

2021年度 活動報告・2022年度 活動計画

調査研究委員会

2022年6月3日

調査研究委員会 委員長
板谷 英彦

目次

1. 部会・委員会の概要

1.1. 中期（3年）の活動方針

2. 2021年度 活動報告

2.1. JIRA市場統計

2.2. JIRA市場統計（受注統計）

2.3. 導入実態調査

3. まとめ

1. 中期（3年）の活動方針

- 社会変化に先駆けた医療イノベーションを実現するために、即時性をもって画像医療システムの市場動向等、基礎データの収集を継続実施する。
- 事業環境、事業形態の変化に合わせて実施する調査・研究を改善していく。
- 昨今の画像診断機器市場が複雑かつ予測が困難な状況を鑑み、タイムリーな市場予測が提要できるように受注統計などの提供検討を進める。
- ニューノーマルの時代に適応した対応として、デジタル技術のWebを活用
 - 集計精度の向上を支援可能なシステム(JIRA-Stat)を用いたJIRA市場統計システムの円滑な運営と信頼性向上に向けた活動を継続する
 - 「画像医療システム等の導入状況及び安全性確保状況に関する調査」にもWebによる調査形態へと変化を加え継続・実施する。

* 「画像医療システム等の導入状況及び安全性確保状況に関する調査（以下、導入実態調査と記す）」

1. JIRA市場統計の概要

- 調査対象：画像医療システムの生産高・輸出高・輸入高及び国内市場
- 調査品目：92品目(プログラム医療機器3機種を2017/4から追加)
- 調査間隔：月単位
- **JIRA会員の中で統計参加協力企業**

2. 市場統計の報告・公開

統計参加企業への報告

- 専用の市場統計Webシステムにて、月、四半期、半期、年度、暦年ベースで、全ての品目(詳細表)について報告

一般会員等への公開

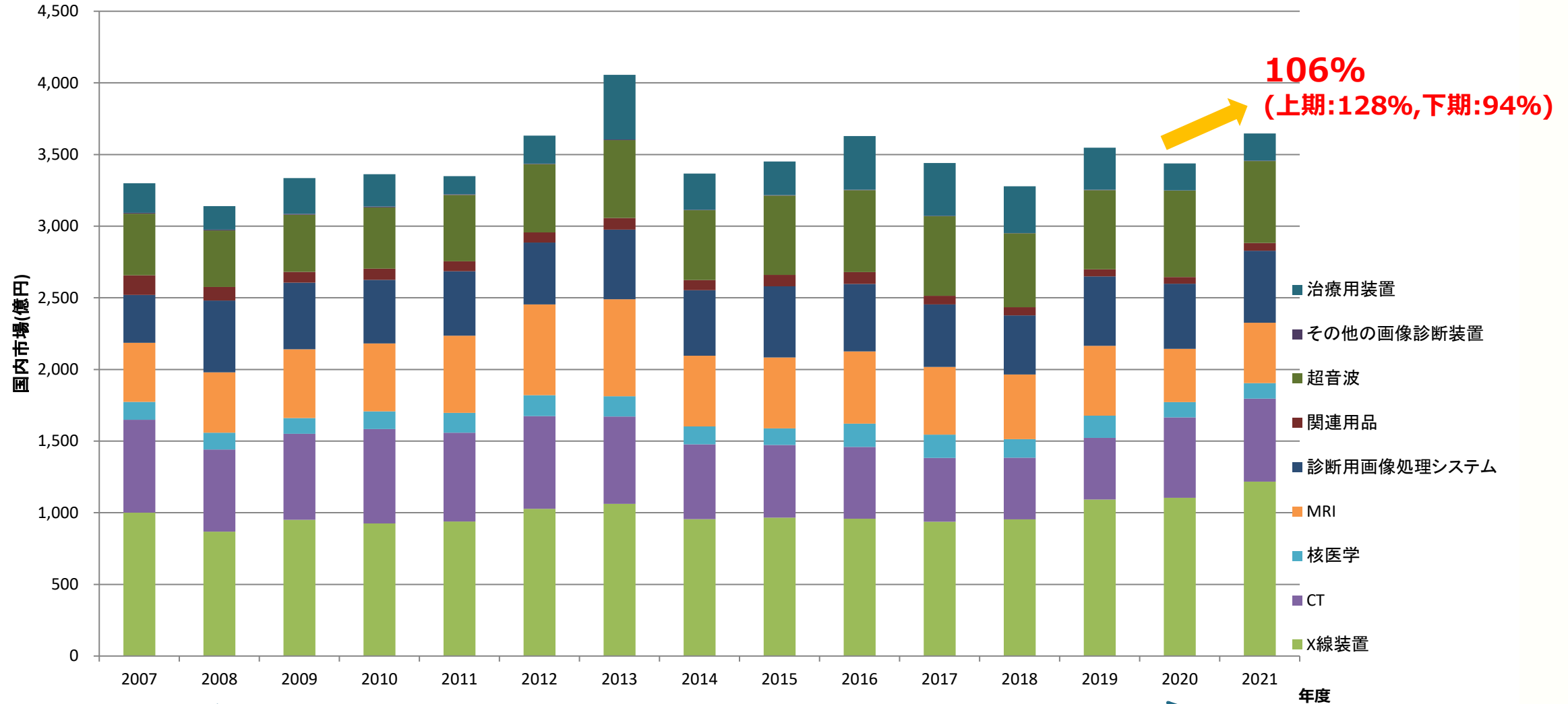
- JIRAホームページの「JIRA市場統計（一般会員向け）」ページにて、四半期、半期、年度、暦年ベースで、「総括表」と「レビュー」を公開
- JIRA会報において、年度のデータを公開
- 2021年度のデータは、一般に対してはData Book 2022で概要を公開

JIRA市場統計の特質

- 統計参加企業の集計結果
- 自主統計
- 即時性

ルールに従った確実な運用を継続

2.1. JIRA市場統計 国内市場15年間の動向



リーマン
ショック
2008/9

東日本大震災
2011/3

消費税8%
(2014/4)

消費税10%
(2019/10)

COVID19
影響
(2020/3~)

1.目的

行政施策や感染症の拡大など、市場環境の大きな変化の影響をよりタイムリーに把握するために、受注から納品まで比較的長い期間を要する大型画像診断関連装置について、従来の売上ベースの市場統計に加えて、新たに受注ベースでの市場統計の運用(21年度WGにて検討)

2.対象品目

循環器用X線透視撮影装置、X線CT装置、診断用核医学装置、診断用磁気共鳴装置

3.活動実績

- 2021年7月 受注検討ワーキンググループ(調査研究委員会内)設立
↓ 参加企業との合意形成/システム要件定義/アプリケーション開発/インフラ環境構築
- 2022年2月 プロトタイプ構築
- 4月 運用テスト、過去分データ集計確認、参加企業向け研修(4/26)
- 5月 システム運用開始

4.公開方法

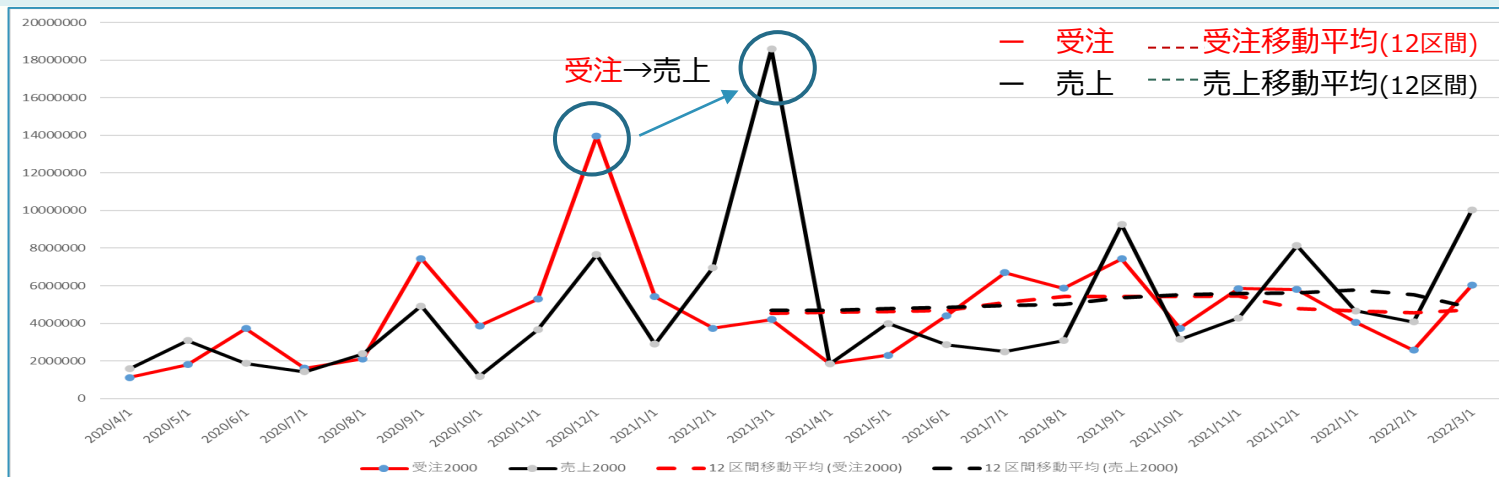
売上統計の参考情報として、四半期ごとに受注統計をJIRA HP公開予定('22/8~、22年度1Q値)

2.2. JIRA市場統計(受注統計) 特徴

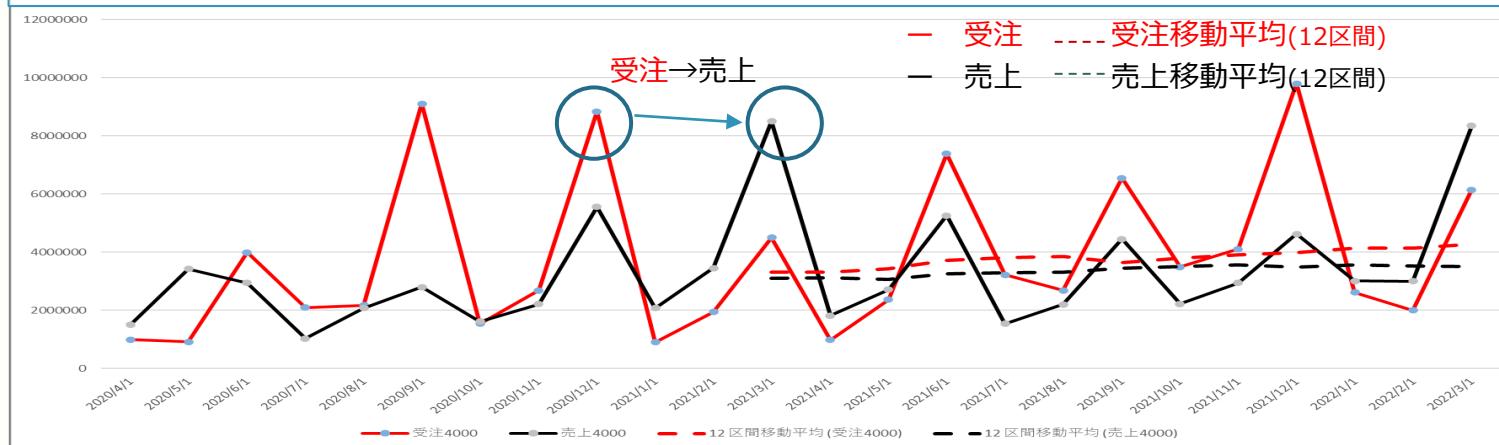
市場の変化の兆しをいち早く捉える

- 大型・長納期の製品において、行政施策や感染症の拡大など市場環境の変化の影響を受けるのは受注（発注）の時点。
- 統計上、まず市場の変化として感知できるのは受注データである。売上データは、その結果としてついてくるもの。

2000
X線CT装置



4000
診断用磁気共鳴装置



JIRA受注統計では、売上統計に比べ
1四半期ほど早く、
 市場の変化を捉えられる

(「第1回受注データ」集計結果より)

2.3. 導入実態調査

1. 調査の概要

「画像医療システム等導入状況と安全確保状況に関する調査」

医療機関における画像医療システムの導入状況、安全点検・安全確保の実態などの2021年度の調査（第19回）は、2021年11月から12月にかけて実施。

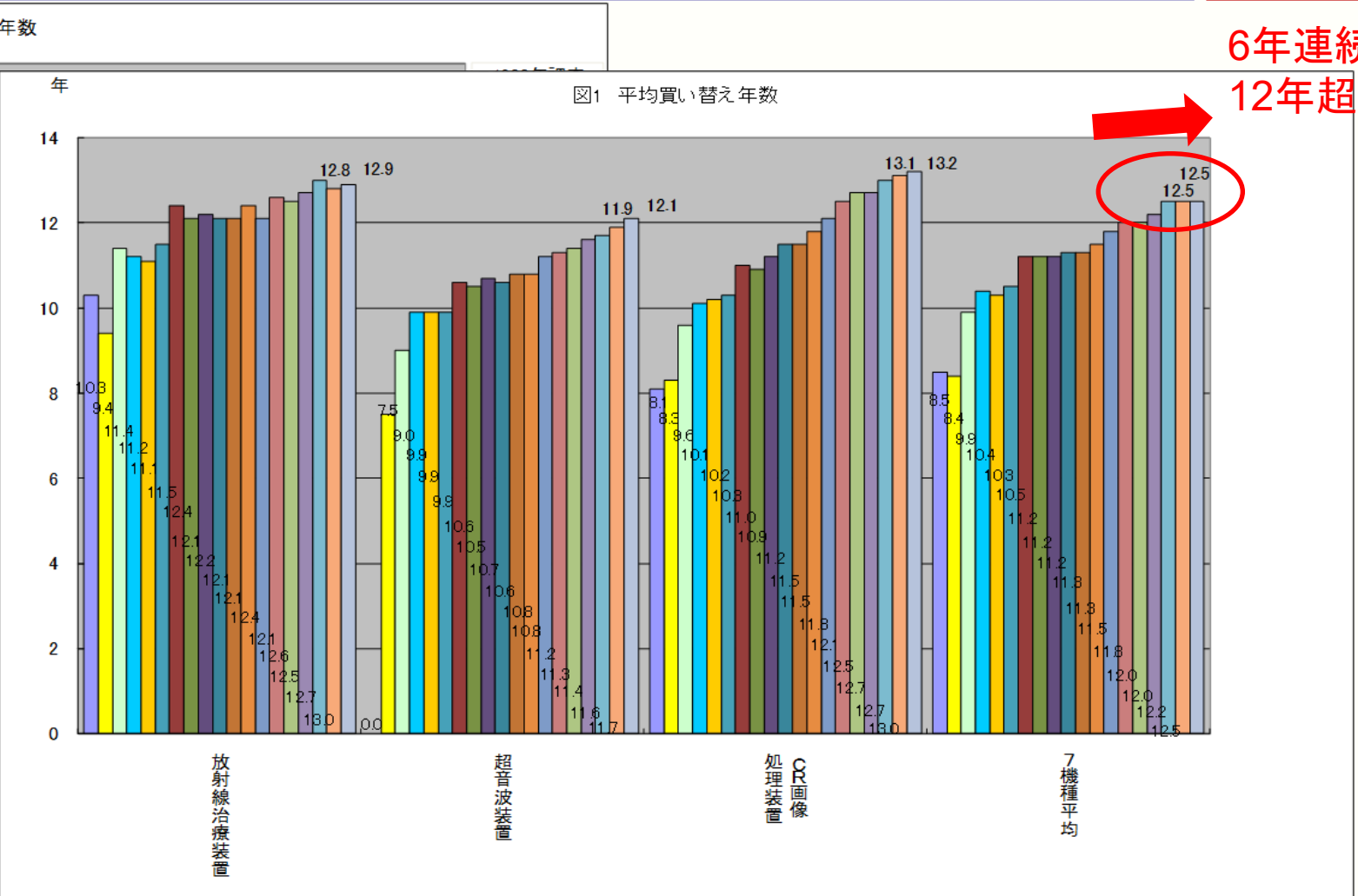
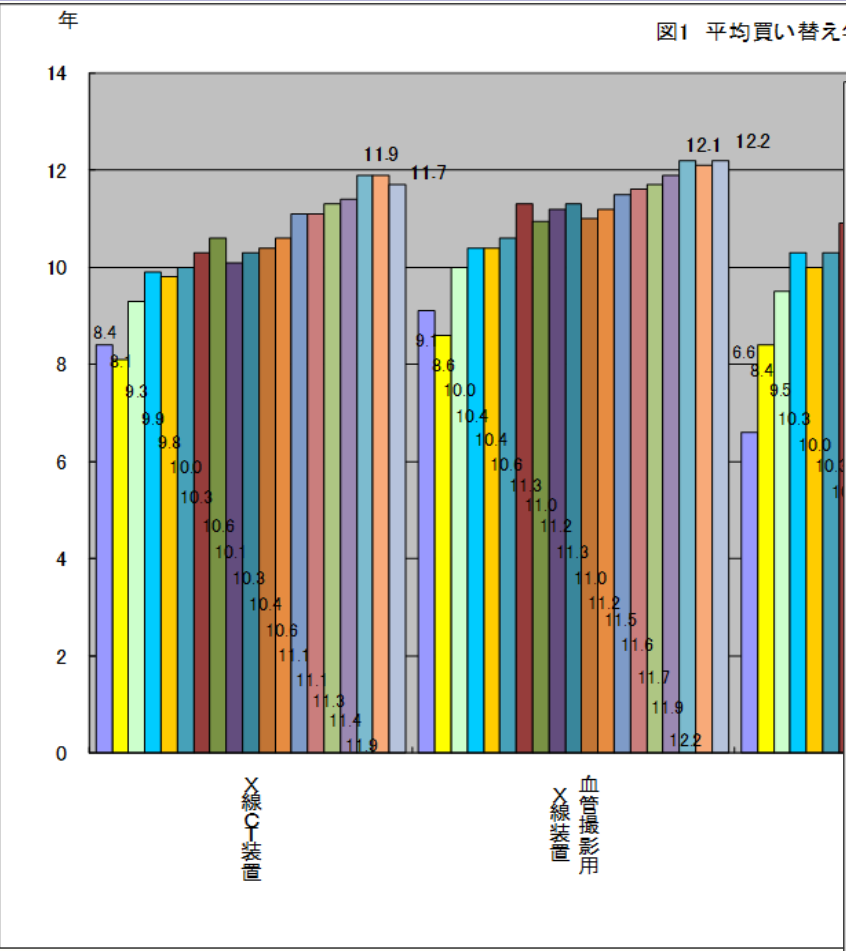
- 全国の**医療施設**を4つの病床群別（99床以下、100床～299床、300床～499床、500床以上）に分類
↓
- その中から**無作為に抽出した1,000施設**の放射線部門技師長宛にアンケート用紙を郵送し、締切日までに得られた回答(**433施設**)を集計・分析

- コロナ禍において実施するかどうかを関係者と協議
コロナ禍だから、何が困っているか、どういう状況かの確認が必要。
さらに、紙だけでなくWebによる回答可能にして実施。

2. 結果概要

- 医療機器の**長期使用**が進み、**保守管理の重要性が増す**中で、院内の点検を含む**保守点検の実施率**がなかなか向上しないという状況は、患者の安全確保の観点からも課題ととらえております
- 調査報告書本体には、**診断用モニタの品質管理状況**、厚生労働省「**医療情報システムの安全管理に関するガイドライン**」の対応状況などの結果や各種クロス集計、自由記述集計も含まれます

2.3. 導入実態調査 平均買い換え年数



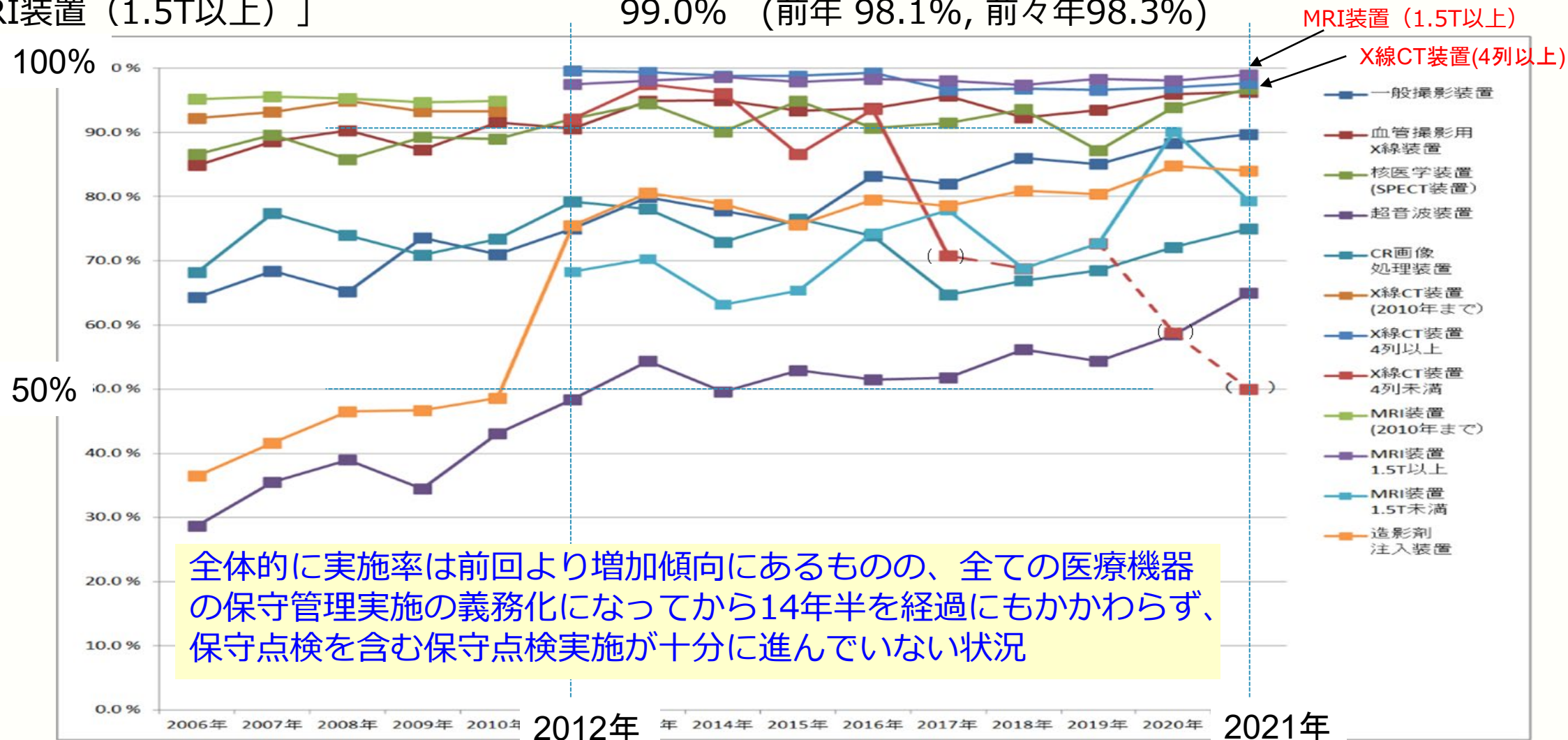
代表的7機種の「平均使用期間」は、2008年の第7回調査から13回連続して“11年”を超え、2016年度から12年となり、その後も高止まり傾向を示し、長期間使用化

2.3. 導入実態調査 保守点検実施率

保守点検計画の添付が義務化の2機種

「X線CT装置（4列以上のマルチスライス）」 97.7%（前年 97.0%，前々年96.6%）

「MRI装置（1.5T以上）」 99.0%（前年 98.1%，前々年98.3%）



3. まとめ

1 市場統計

- 2021年度(2021年4月~2022年3月) 画像医療システム国内市場
診断システム計 : 3,457億円(106%) 全体合計 : 3,647億円(106%)
- 画像医療システム 生産(102%) 輸出(97%) 輸入(106%)
- 市場統計説明会(VOD) : 2022年1月19日(水) ~ 1月25日(火)
- 受注統計 : ワーキンググループ設立による検討開始(2021年7月)、2022年2月プロトタイプ構築
(*2022年5月 システム運用開始)

2 導入実態調査

- 平均買い替え年数 : 12年超、保守点検実施率 : まだ不十分
- 導入実態調査の説明会(VOD) : 2021年11月1日(月) ~ 11月15日(月)

3 お願い事項

- 2022年度も市場統計、導入実態調査を継続実施し、改善・改良していきます
(更に、市場環境の変化をタイムリーに取得を目的に、新たに受注ベースの市場統計の検討)
引き続きのご理解ご協力をお願いいたします

*調査・研究委員会HP : <http://www.jira-net.or.jp/commission/tyousa/index.html>



ご視聴
ありがとう
ございました

JIRA

一般社団法人 日本画像医療システム工業会
Japan Medical Imaging and Radiological Systems Industries Association